議題３

政策会議付議事案書（令和５年１０月２４日）

提案課名　森林ふれあい課
報告者名　北村　栄

事案名	森林資源循環サイクル構築のための「森林・里山の活用アクションプラン」を策定することについて　資料　有
目的・必要性	本市は、市域の５２％を森林が占めており、森林は木材としての活用だけでなく、生物多様性の保全、地球温暖化防止としての二酸化炭素吸収、土砂災害の防止、水源のかん養など多面的な機能を有しており、市民の暮らしにも深く関わっています。 そのような森林を適切に保全管理し、次世代に引き継ぐためには、森林や里山の循環、更新を図り、間伐等の森林整備を促進するとともに、森林から産出される木材、里山から出る林産物を活用する仕組みが重要となります。 そこで、森林施策の事業全体を整理し、「秦野市森林整備計画」で定めた森林・林業に関する課題解決を図り、本市総合計画で示す目指すべき姿を具現化するため、持続的な森林資源の循環サイクル構築のための「森林・里山の活用アクションプラン」（以下、「アクションプラン」という。）を策定し、木材活用等を積極的に推進していくものです。
経過・検討結果	令和４年度　快適な住まいづくり（秦野産材住宅支援）事業見直しに伴う関係団体へのヒアリングの実施 令和５年３月　「秦野市森林整備計画」の改定 令和５年４月～　アクションプラン及び各事業について関係団体へのヒアリングの実施
決定等を要する事項	１　持続的な循環サイクル構築のためのアクションプランを策定すること。 ２　森林環境譲与税を活用し、アクションプランに位置付けた諸施策を展開すること。
今後の取扱い	令和５年度　アクションプランの策定 木材利用の可能性について庁内へ周知・照会 ＰＲ冊子の作成、ＨＰ等で広報 アクションプランに基づいた補助制度の見直し・新設 令和６年度以降　アクションプランに基づいた事業の実施 一部事業を市制施行７０周年記念事業の一環として開始

令和５年度　森林・里山の活用アクションプラン

資料 Ⅰ

課 題

・里山林（広葉樹）の整備の遅れ
（森林の管理割合：針葉樹72%、広葉樹56%）
・大径木化によるナラ枯れ被害、鳥獣被害
・健全な森林・里山づくり

目 標

・森林整備と木材活用の持続可能な循環サイクルの構築
・循環サイクル構築による森林・里山の健全化

循環サイクル構築のイメージ

現行の育樹関連事業

- ✓ 市民による森林づくり
- ✓ 育樹事業の開催
- ✓ 里山ボランティア養成研修
- ✓ 里山連絡協議会
- ✓ 里山協力隊
- ✓ 造林補助事業
- ✓ 民有林補助事業
- ✓ 地域長期施業受委託事業
- ✓ ふるさと里山整備事業
- ✓ 水源の森林づくり事業

現行の植樹関連事業

- ✓ 市民による森林づくり
- ✓ 植樹祭の開催
- ✓ 造林補助事業
- ✓ 民有林補助事業
- ✓ 地域長期施業受委託事業

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

COOL CHOICE

木育など

現行のふれあい関連事業

- ✓ 森林セラピー事業
- ✓ 北小学校森林体験学習
- ✓ 里山まつりの開催
- ✓ 里山ふれあいセンター

現行の活樹関連事業

- ✓ 地場産木材活用推進事業
- ✓ 快適な住まいづくり補助金
- ✓ 小学校学習机天板の導入

活樹を促進するために

３つのアクション

☛アクション①
生涯を通した木とのふれあい（針葉樹）
☛アクション②
健全な里山づくり（広葉樹）
☛アクション③
木のある暮らしづくり（針葉樹・広葉樹）

令和５年度　森林・里山の整備状況

植樹事業

事　業	R4決算額	主な内容（数値はR4実績）
植樹祭の開催	650千円	植樹　463名参加
地域長期施業受委託事業	69,020千円	植栽　0.53ha 獣害対策工 639.7m
造林補助事業	1,721千円	造林（苗木植え付け） 植生保護柵　1,221.3m
民有林補助事業	2,709千円	造林（苗木植え付け）
合計	74,100千円	

育樹事業

事　業	R4決算額	主な内容（数値はR4実績）
育樹事業の開催	243千円	下草刈など　78名参加
水源の森林づくり事業	7,421千円	間 伐　6.94ha 枝打ち　2.42ha　等
ふるさと里山整備事業	39,894千円	森林整備　20.49ha 里山林整備　19.80ha　等
里山ボランティア養成研修	266千円	13名受講
里山ふれあいの森づくり事業	6,306千円	整備面積　里山　31.89ha （うち竹林2.50ha） 里地　3.46ha
合計	54,130千円	

活樹事業

事　業	R4決算額	主な内容（数値はR4実績）
快適な住まいづくり補助金	1,092千円	補助件数　３件 木材使用量　23.52㎥
小学校学習机天板の導入	1,153千円	東小（3.4年生） 北小（6年生） 上小（全学年）
合計	2,245千円	

新たに柱となる３つのアクション

☛アクション①
生涯を通した木とのふれあい（針葉樹）
☛アクション②
健全な里山づくり（広葉樹）
☛アクション③
木のある暮らしづくり（針葉樹・広葉樹）

アクション①：【新規】生涯を通した木とのふれあい

	乳幼児		小学生・中学生			成　人			高齢者	
	出生時	未就学児	6・12歳	12歳	15歳	婚姻時	随時		90歳夫婦	101歳以上
実施予定	令和6年度	令和6年度（単年）	令和7年度以降	令和7年度以降	令和6年度	令和6年度	令和6年度	令和6年度	令和6年度	令和6年度
物 品（案）	ヒノキ玉（もりりんを印字）	木のおもちゃ（つみき・パズル等）	入学・卒業記念定規	学習机天板	卒業証書	ペアコースター	丸太ベンチ・イス	戸籍届出受理証明（婚姻等）、表彰状、感謝状等	敬老記念品①（フォトフレーム）	敬老記念品②（干支の置物）
対象者数	約1,000名	43か所	約2,400名	約1,300名	約1,300名	約1,200組	各20台	随時	約40名	約75名
概 要	出生届提出時	こども園・幼稚園などに木製おもちゃを配付する。	入学・卒業時 ※6年生の天板を活用	ヒノキ天板拡大（全校6年生）	中学卒業時 ※秦野産木の紙	婚姻届提出時	学校、公共施設等に設置する。	記念となる証明・賞状等に秦野産木の紙を活用する。	夫婦や家族、孫などの写真を飾れるフォトフレームを贈呈する。（1組1個）	その年の干支の記念品を贈呈。（108歳で自分の干支、112歳で十二支が揃う）
関連課等	戸籍住民課	保育こども園課 教育総務課	教育総務課 各小学校		教育総務課 各中学校	戸籍住民課	設置希望施設所管課	戸籍住民課ほか	高齢介護課	
現行事業	なし	なし	なし	東小（3,4年生） 北小（6年生） 上小（全学年）	卒業証書（厚紙27cm*39cm）	なし	なし	なし	湯飲み（5千円相当/2個）	お茶（3千円相当）
羽根森林資源活用拠点	施設内に、積み木などの木との触れ合いコーナーを設置。木工体験、木工製品家具販売、森林セラピー体験を実施する。									
各課の取組み	全庁で木材活用を推進し、各課の取組みの中で木材を活用する。									

○木製製品（例）

ヒノキ玉

積み木

木の賞状

ペアコースター

干支の置物

森林環境譲与税の執行状況　　単位：千円

年　度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	計
歳　入	10,273	21,832	21,754	30,624	84,483
歳　出	10,273	5,072	9,923	31,503	56,771
差　額	0	16,760	11,831	-879	27,712

アクション②：【新規】健全な里山づくり

◆課題

・里山林、薪炭林などの利用がなくなり、広葉樹林が大径木化し、広葉樹林の整備が遅れている。大径木は、里山ボランティア等では伐採が難しく、広葉樹林を対象とした補助も少なく、ナラ枯れや鳥獣被害、里山の不健全化などが発生している。
・補助金に依存した森林整備。
・秦野市森林組合では、ホダ木を年間約2,800本（600円/本）を販売しているが、全て他県から仕入れたものとなっている。

◆目的

・広葉樹の利用を促進することで、かつてのきれいな里山の風景を取り戻すとともに、ナラ枯れ・鳥獣害対策を図る。
・補助金に頼らない森林整備を推進する。
・秦野産ホダ木の生産、安定・安価な供給を図る。ホダ木とならない材については薪として利用する。

◆事業概要　※森林組合を対象とした補助

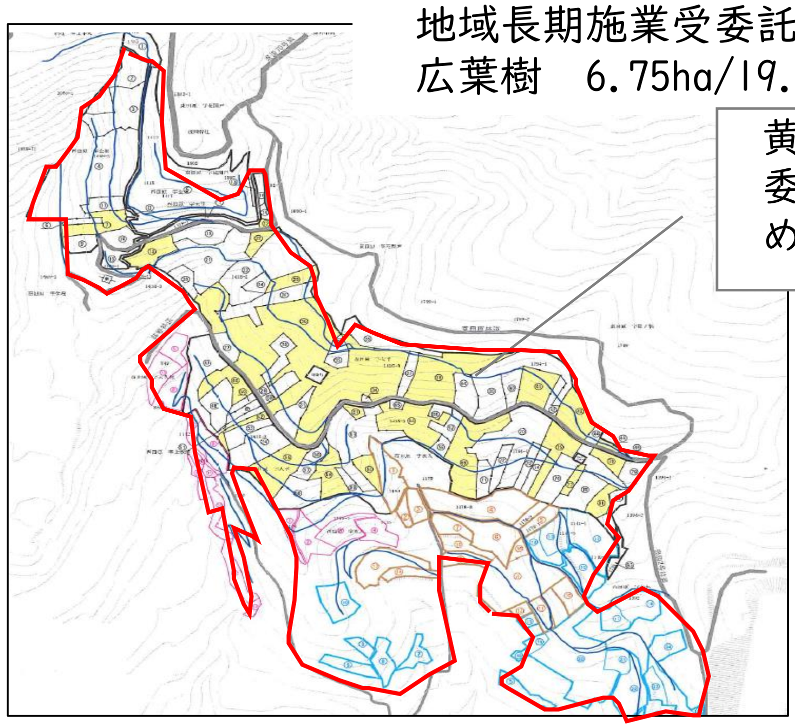
・地域長期施業受委託事業で対象とならない広葉樹林を整備するため、大径木の伐採などの経費の一部を補助する。
（すでに管理している森林で作業路等の搬出経路があり、針葉樹と広葉樹の一体的な整備が可能となる。）
・毎年、新たな施業地の大径木を伐採し、ホダ木に適した太さに生育する約２０年間で森林循環のサイクルを築く。
・下刈り等の森林管理は、市、森林組合、里山協議会の三者で連携し、費用や人的負担を軽減する。
（調印式を行うなど協定を結び、森林観光都市として市内外へＰＲする。）

【広葉樹林の循環サイクル】 ※毎年、補助単価等を見直し、最大２０年の補助とする。

施業地	1年目	2年目	3年目	～	20年目	21年目
No.1	**伐採・搬出**	下刈	下刈	（補植）		**伐採 ホダ木生産**
No.2		**伐採・搬出**	下刈			
No.3			**伐採・搬出**			
～						
No.20					**伐採・搬出**	下刈

ホダ木生産までの伐採木は薪として活用

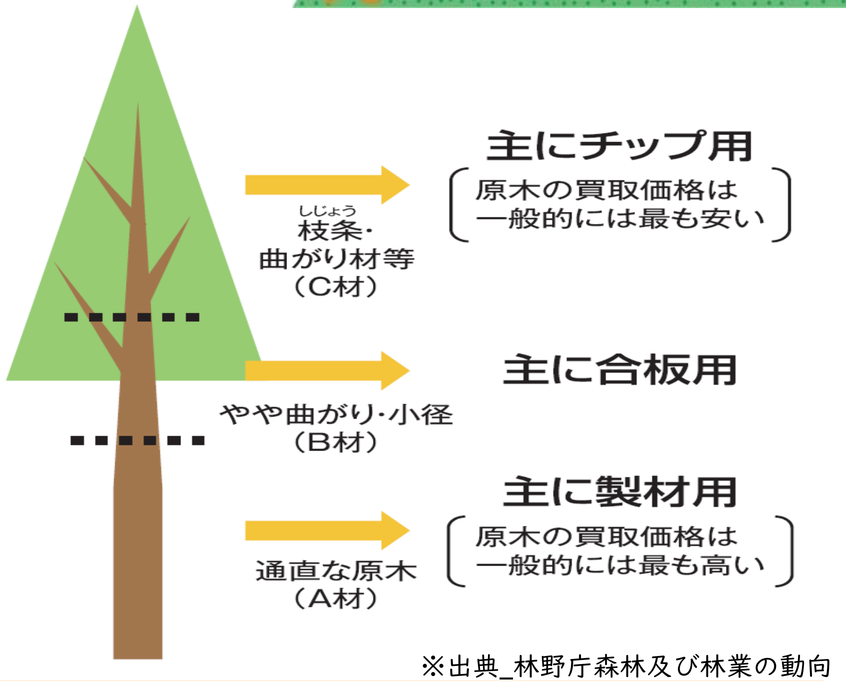
【施業地例】
地域長期施業受委託事業（田原地区）
広葉樹　6.75ha/19.52ha



黄色が広葉樹で、長期施業受委託事業の対象とならないため未整備となっている。

アクション③：【見直し】木のある暮らしづくり

※快適な住まいづくり補助金の見直し



◆課題

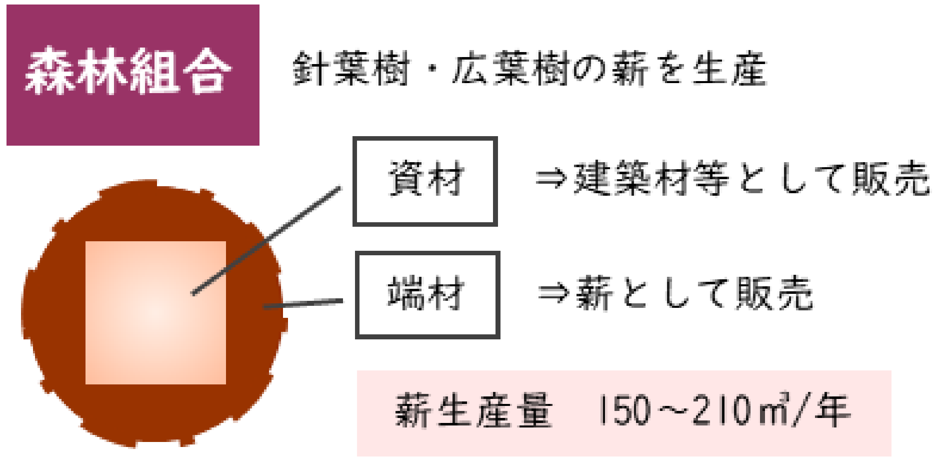
・構造材の流通拡大
・内装材の利用促進、需要が見込める都市部への売り込み
・建築資材とならないＢ・Ｃ材の活用、製材後の端材の活用
・補助に頼らない林業への推進
・薪、ホダ木など、広葉樹の利用がされていない
・里山団体の存続

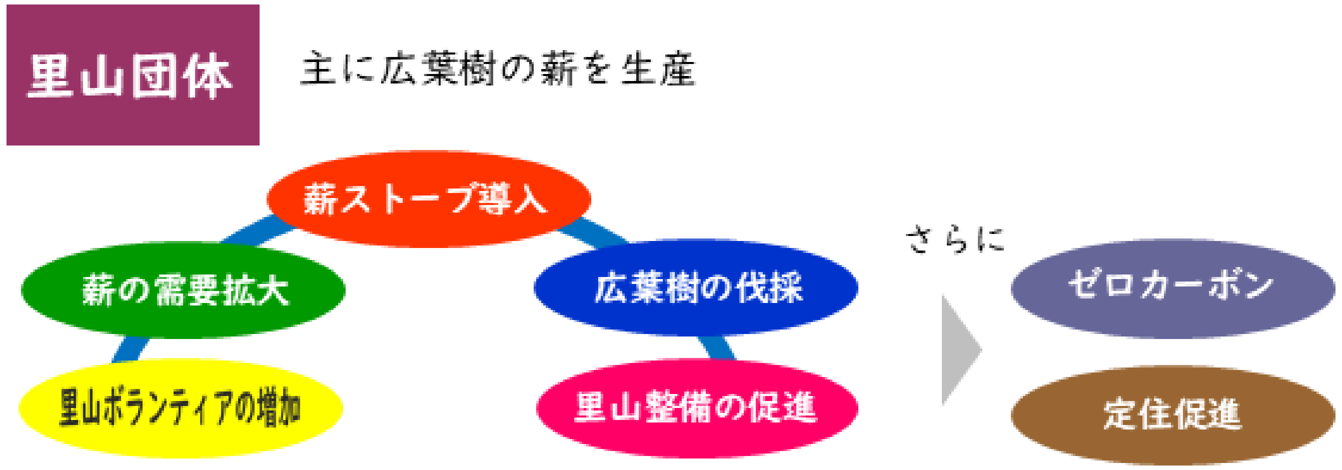
◆目的

・秦野産木材を目に見える部分で使用することで、木とふれあえる機会を創出する。
・木材の需要拡大による森林資源の循環、カーボンニュートラルの実現を図る。
・薪の需要拡大による里山資源の活用、きれいな里山の再生。
・薪ストーブ導入者の里山団体への加入促進、活性化を図る。

◆事業概要

・居住用住宅だけでなく、多くの人が集まる企業や飲食店、自治会館などを対象を拡大する。
・Ｂ、Ｃ材を内装材等に利用し、森林資源の有効活用を図る。
・薪ストーブを補助対象とし、近隣住民や環境への影響に配慮（使用方法の講習実施、誓約書の提出など）する。
・令和５年度に作成するＰＲ冊子により、市内外や企業・飲食店等へ周知する。
・３年ごとに補助の見直しを図る。※毎年、効果を検証して補助率等を見直す。





諸計画との関係

秦野市総合計画2030プラン

秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

||

“住んでみよう・住み続けよう”秦野みらいづくりプロジェクト

プロジェクト１「健康で安心して暮らせるプロジェクト」

①水とみどりを育む取組みの推進

プロジェクト４「新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト」

①表丹沢魅力づくり構想の推進

はだの一世紀の森林づくり構想

秦野市森林整備計画

基本施策２「森林資源の持続可能な利用と地域産業づくり」

（２）林産物の利用拡大

基本施策３「森林とのふれあいと市民参加の森林づくり」

（１）里山林の整備と森林とのふれあい

表丹沢魅力づくり構想

方針２「資源の適切な保全と新たな展開」

１「資源の新たなプロモーション」

新たな取組２「森林の魅力に触れ、自然や林業に親しめる取組みの検討」

３「二次林の活用等による適切な自然保護の推進」

新たな取組４「里山林整備に伴う間伐材を活用した木質バイオマス導入の検討」

具現化

森林・里山の活用アクションプラン